

学校法人 睦美学園 むつみこども園
自己評価・学校関係者評価 結果公表シート（2023年度）

1 本園の保育方針

一人ひとりが自分らしく暮らし、遊び、働くために、まちのみんなで考える。
そんなまちづくりに取り組んでいます。

<大切にしている姿>

自分らしくある・自分でかんがえる・夢中になる・クリエイティブである
チャレンジする・おもしろがる・自分たちのまちづくり・いっしょにかんがえる
心地よく暮らす・思いっきり遊ぶ・仕事に打ち込む

2 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	達成及び取り組み状況
余裕のある保育	少なくとも「余裕」とは何なのかについて考えることが増えた1年であった。こどもの気になる姿に寄り添う意識が強いあまりに、みんなを見守れているのか。また、「こどものため」を優先しすぎて、結局一人の大人として余裕をなくしていないか。そもそも「余裕」のある保育をするのは何のためだったか、など、今後引き続き考えていくべきポイントが明確になった。ICTの活用などにより業務の効率化は進んでいるが、それが保育に関わる余裕につながっているのかを常に意識しながら、実践を進めていく必要がある。
保育と向き合う	まちごとだけではなく、ミドルリーダーを含めたチームで保育の計画について考える機会が増えた。また、こどもの姿を遊びマップに記録し、そこから環境構成や次の活動に繋げていくことが増えた結果、遊びにつながりが出始め、結果的に行事の見直しにつながるようになった。一方で、それが保育過程とつながった週案や月案として機能しているとはまだ言えない。今後も継続的に検討が必要である。
働き方の改善	他園への見学や研修から学んだことを踏まえ、1日のスケジュールの中で必要な人員を見える化し、ミーティングや休憩、ノンコンタクトタイムなども盛り込んだシフト管理がスタートした。休憩についてもおおよそ機能しており、16:30までの保育がスタートしてもうまく回っていく下地づくりができた。システムとしては整ったが、休むという意識も含めて、「自分らしく生きる、暮らす、働く」ことに向き合うためには、まだまだ工夫の余地がありそうだ。

<p>園庭改造</p>	<p>こどもたちは自然に囲まれた園庭の存在にも慣れ、ゆったりと遊ぶ姿が見られるようにはなっているが、遊びに夢中になるための仕掛けや関わりはまだ足りていない。園全体で園庭を意識するとともに、チームで改善を進めていく必要がある。</p>
<p>アトリエ・サロン新設</p>	<p>アトリエの建物もおおよそ補修が完了し、課外事業「アトリエじかん」がスタートした。素材を集めたり、DIYに協力いただく中で、活動に興味を持っていただいたり、集う場として利用していただいたりするなど、町との接点の広がりが感じられるようになった。コンセプトをはじめ、町とアトリエがどのような役割を担っていくのか、まだまだ検討事項は多い。</p>
<p>1歳児プロジェクト</p>	<p>日常の業務がある中で、チームを組んで物事を進めていくことの難しさに直面することもあったが、メンバーのこれまでの経験や、他園での見学で学んだことと、園が大切にしていることを照らし合わせながら、じっくりと検討を重ね、むつまじい1歳児クラスをスタートさせることができた。もちろん、こども一人ひとりの姿に合わせて、今後も継続的に質の向上を目指す。</p>
<p>みんなで育つ</p>	<p>チーム・ポジションごとに担当する範囲と役割を明確にしたことと、次年度に向けての検討事項が多かったこともあり、コミュニケーションをとる機会や、チーム内で決め、それを共有するという流れができてきた。また、いろんな人が働く中で、思いがうまく噛み合わなかったりした時に、お互いやチーム、第三者が入って話すなど、自分たちで解決するという姿勢も見られるようになってきた。</p>

3 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・一人一人の育ちが尊重される園の環境や雰囲気づくりができています。
- ・子どもたち自身を生来的に考える力を持つ存在、主体者として尊重するという理念がスタッフ間で共有されている。
- ・子どもたちを支える存在として園の教職員もまた主体性を発揮しながら、日々の保育に取り組んでいる様子が様々な場面で観られた。
- ・子どもの「今」に寄り添うという園の良さと年齢年の発達に沿った教育課程の編成という課題とのバランスをどうしていくかについて、今後検討が必要である。
- ・様々な職種の立場を超え、チームむつまじいとしての連携・共有を通して課題に取り組み、さらなる質の向上に努めていく必要がある。

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み
コンセプトと実践がつながる	むつみが大切にしたいことは徐々に浸透してきているが、よりわかりやすく、いろいろな人に伝えていくために整理し直していく。また、保育課程や指導計画等のあり方見直し、実践レベルにおいてもコンセプトがつながっていくような仕組みづくりを行う。
保育と向き合う	遊びがつながり、深まっていく。そのためには大人の適切な関わりや環境づくりが欠かせないが、その背景として、こどもの姿の適切なみとりやねらい、計画、実践、評価のサイクルがシステムとして日常に組み込まれている必要がある。そのためのシステムづくりを継続的に取り組む。
身体と向き合う	暮らし方を自分自身で意識する。身体を十分に動かす。怪我を防ぐことを自ら意識する。生きるために食べる。ゆっくり休む。新たに迎え入れる1歳児を含めた園全体での身体を意識したしかけづくりに取り組む。
余裕のある保育	長時間の保育が日常化する中で、こどもたちがゆったりできる場所や時間の確保が欠かせない。また、スタッフにとっても休むための時間や書き物に集中する・話し合いをするための時間を確保し、誰にとっても公平なシステムづくりに努めたい。
保護者とともに	こどもの遊びのおもしろさへの保護者の理解は高まりつつある一方で、働き方や保育ニーズも多様化し、保育のことを知ってもらうには工夫が必要である。保護者とともにこどものことを考えるしかけを増やしていきたい。
町とともに	むつみのことを知ってもらうきっかけをさらに増やしていくとともに、園内での遊びからつながってこどもが町の活動に参加したり、いろいろな人にむつみに入ってきてもらうなど、双方向での町とのつながりを増やしていきたい。